

中町中学校だより 丘山通信



令和6年度卒業おめでとう号
多可町立中町中学校

令和7年3月14日（金）発行

<https://www.town.taka.lg.jp/naka-jhs/>

電話 32-0009 文責：校長 神崎



「 卒業式式辞（抜粋） 」

学校長 神崎進吾



活気あふれる男子に、しっかり者の女子。体育祭や文化祭などの学校行事では、皆さんはその明るさと元気の良さを存分に活かし、リーダーとして後輩たちを力強く導いてくれました。全校一心となって作り上げた「全校ダンス」、クラスや学年で一体となった合唱は、本当に素晴らしいものでした。皆さんの真剣な眼差しと、弾けるような笑顔が、今も目に焼き付いています。

「桜花爛漫～咲き誇れ、206の個性～」のスローガンのもと、本校の伝統である生徒主体の活動を継承し、発展させてくれた生徒会活動。「生徒会レクリエーション」や「球技大会」では、皆さんは工夫を凝らして仲間を大いに盛り上げてくれました。また、「凡事徹底週間」や「美化コンクール」など実践部の活動では、生活の根本を大切にする姿勢を示してくれました。さらに「手形アートを施した生徒会スローガンの横断幕」や「ポッカぽこ～伝えよう magic words!!～」の取組は、お互いの良さを認め高め合う素敵な取組でした。まさに皆さんは、校訓である「自主・共励・責任」を体現し、学校に確かな足跡を刻んでくれました。

今日は、卒業する皆さんへの餞として、一つの言葉を紹介したいと思います。

中庭にありますこの銅像を、生徒の皆さんはきっと見たことがあるでしょう。この銅像は、今から56年前、卒業生が卒業記念として制作したもので、台座に漢字2文字が刻まれています。その文字が何か、皆さんはご存じでしょうか？ そう、こちらの「立志」の文字です。この像は「立志の像」と呼ばれています。そして、この「立志」の文字は、今も中町中学校の校長が代々受け継いでいる非常に大切な「揮毫」でもあります。先ほどの台座に刻まれた文字の原板がこちらです。

※「揮毫（きごう）」・・・毛筆で、文字や絵をかくこと

この文字を揮毫されたのは、安平政吉（やすひら まさきち）さんです。彼はこの多可町中区岸上の出身で、かつて最高検察庁の検事として活躍し、東北帝国大学や明治大学、中央大学でも教鞭をとられた刑法の学者です。最高検察庁は、三権分立の一角を担う、最高裁判所と並ぶ司法機関のトップです。その検事となれば、内閣の大臣クラスの役職に匹敵します。

安平政吉さんは1896年生まれで、当時の日本では尋常小学校を卒業したばかりでほとんどの人が就職をしていた時代です。その中で、この小さな田舎町から東京帝国大学法学部（現在の東京大学法学部）を卒業し、最高検察庁の検事や法律学者として活躍したのですから、その立身出世はまさに異例のものでした。その陰には、きっと並々ならぬ努力があったことは想像に難くありません。

その安平政吉さんが、中町中学校の生徒たちに贈った言葉、それが「立志」です。「立志」とは「志を立て、将来の目的を定め、それを成し遂げようとするこ



「立志の像」（中庭）



「立志」（校長室・安平政吉氏、揮毫）

と」です。よく似た言葉に「夢を持つ」という言葉がありますが、「夢」と「志」は異なります。夢とは、達成できたら良いなという個人の目標や希望であり、あいまいな想いが含まれていることもあります。一方、「志」は個人の願いだけでなく、社会のために、周りの人々を幸せにしたいという思いが込められ、行動も伴っているものです。「志」は、世のため人のためになりたい、貢献したいという、個人の夢を超えた誰かの喜びにつながる使命なのです。

皆さんも、いつか社会に出て働く日が来るでしょう。今、多くの皆さんが「こんな職業に就きたい」「こんな仕事をしたい」という夢を抱いていることと思います。推薦入試の面接練習では、その夢を語ってくれました。また、PTA広報誌「あるべじお丘山」でも、皆さんが書いてくれた夢を読ませてもらいました。夢を持つことは、人生を歩む中で、年齢に関わらず重要なことです。そして、私は皆さんにぜひその『夢』を、単なる個人的な希望にとどまらず、他者や社会のために貢献する『志』へと高めてほしいと心から願っています。

そのために一つの方法があります。それは、皆さんの抱く夢に『誰かのために』という言葉を加えることです。たとえば、「自分は自動車整備士になりたい」「自分は看護師になりたい」という夢があるとしましょう。しかし、『誰かのために』という視点を加えることで、夢はただの希望にとどまらず、より具体的な目標に変わります。例えば、『お客様から安心して整備を任せてもらえる自動車整備士になりたい』や、『患者さんの気持ちを理解し、感謝される看護師になりた』といった具合です。

職業に関する夢でなくても、例えば「大人になる」「結婚して母親になる」といった目標についても、漠然としたものにとどめるのではなく、『どんな大人になりたいか』『どんな母親になりたいか』という具体的なイメージを持ち、それに自分だけの『飾り言葉』を加えてください。そうすることで、「夢」は「志」へと高まり、今後何を学び、何を身につけていかなければならないかが見えてくるでしょう。

皆さんが成長するにつれて、その夢に添える『飾り言葉』も増えていきます。例えば「EV自動車の整備ができる自動車整備士に」や「子どもの気持ちにより添える小児科の看護師に」などです。夢が実現したときには、さらに新しい飾り言葉を加えてください。そして、何歳になっても『誰かのために』という言葉添えた夢に向かって歩み続ける、そんな『志』を持つ人になってほしいと願っています。皆さん一人ひとりが、自分の人生において大輪の花を咲かせることを心から願っています。これからもずっと、応援しています。

～ 第78回卒業証書授与式 - 64の夢が羽ばたいていきました - ～



「喜びと寂しさ」「笑顔と涙」… 学校は今日、1年で一番優しい1日を迎えました。本日、3月14日(金)、卒業生たちは晴れ晴れとした表情で、笑顔一杯に登校。前日に1年生が校舎内外の清掃、2年生が会場準備を担当しました。卒業生は2年生が飾りつけてくれた教室へ。中学校生活最後の教室。卒業式が始まるまでの少しの間に、友だちや先生と話をしながら楽しく過ごしました。そして午前9時、「第78回卒業証書授与式」が始まりました。式は終始厳粛な雰囲気で行われ、緊張しながらも、卒業生は卒業証書をしっかりと受け取りました。この日「送辞」を務めたのは、在校生代表の松本夕佳さん（現生徒会副会長）、

「答辞」を務めたのは、卒業生代表の間嶋悠心さん(旧生徒会長)。2人とも今日までの想いをしっかりと込めた素晴らしいスピーチを披露し、多くの人たちの涙を誘いました。そして、3年生による式歌と全校生による校歌斉唱。心のこもった歌声が体育館に響きました。64名の卒業生のみなさん、感動的な卒業式をありがとう。未来へ大きく羽ばたいてください。